

完了報告書（平成 23 年度）

提出者 戸梶 民夫

提出年月日 2012 年 4 月 30 日

【プロジェクト名】

和文 「性的市民性と性的少数者運動の公共圏変容

——在京同性愛者運動団体におけるエイズ・イシューの取り組みをめぐる——」

英文 Sexual citizenship and the Changing of public sphere about sexual minority movement :
Approach for AIDS issue in Gay liberation group in Tokyo

【メンバー構成】

研究代表者 戸梶 民夫

幹事

メンバー

【ねらいと目的】（600 字程度）

（本プロジェクトにおいては、途中で諸般の事情があり、調査団体を在阪性的少数者団体に変更し、調査テーマを、当該団体の医療福祉問題・労働問題への取り組みについて、と変更している）。

21 世紀に入り日本の性的少数者の公共性は、大きな変化を遂げてきている。それは、それまでの性的少数者公共性の前提であった、ジェンダー規範・強制的異性愛のような一国内の統一規範の存在を、コミュニティの内部においても前提とできなくなってきたことにある。その結果として、性的少数者の問題を公共化するための性的公共性の現在のあり方は、「倫理性」や「法制度」といったより広い領域と交差せざるをえなくなっており、当然その公共性を捕捉する試みも、より広い学的領域からアプローチしていく必要が出てきている。

今回の調査対象である在反性的少数者団体 QWRC は、2003 年に女性と多様な性的少数者の交流と創造的な活動に向けて立ちあげられたリソースセンターである。しかし QWRC は、この 10 年近くの活動の中で、医療・福祉領域の専門家や支援者、また労働組合といった外部団体との繋がりを深めてきている。その中で、「弱者」「支援対象」としての性的少数者の位置づけを一定程度受容しながら、しかし性的少数者として繋がっていく動機を支えるアイデンティティを手放せないという矛盾した状況の中で活動を行っている。文化的なアイデンティティによる繋がりの強さが弛緩していく中で、「制度」との関係の中で性的少数者の問題を開示していく公共性創造のプロセスにおいて、出てこざるを得ないこのような矛盾にいかに向かい合うか。こうした課題は 21 世紀以後の性的少数者の繋がりを実践的に維持するためにも学的に捕捉するためにも、決して欠かせない問いとなっており、その意味で QWRC の事例は、多くの性的少数者の問題を開示していく性的公共性の維持・創出プロセスに大きな知見を提供するようと思われる。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等
調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等
その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

<2011年6月～2012年3月>

在阪性的少数者団体 QWRC に参与観察（調査者：戸梶、調査目的：資料収集）

<2011年6月～2012年3月>

在京性的少数者活動スペース acta にて「同性愛者のライフプランニング研究会」に月一回のペースで参加。
（調査者：戸梶、調査目的：QWRC と近い傾向をもつ活動を参照しながら、対比的に QWRC の活動の位置づけを考えるため）

【成果の概要】（800字程度）

今回のプロジェクトでは、在阪性的少数者団体 QWRC が 2003 年の創設からどのような変化を遂げていこうとしているのかを辿ることになった。発足当初においては、QWRC は、女性と性的少数者の団体として、さまざまな多様な人々の集う場所として活況を呈していた。またそこでは、多様な性的少数者を表す「クイア」という言葉を大事にし、性的少数者であること自体の文化政治を重視した活動を展開してきた。しかし、こうした政治性を重視する形式は、徐々に変化し、専門家・支援者や外部団体との連携を強めていくことになる。

本プロジェクトでは、この経過を近年における QWRC の二つの企画に焦点を当てて探ることになった。一つは、「LGBT と医療福祉」という企画で、医療・福祉分野においていかに性的少数者が医療・福祉のサービスを受けられやすくするかを志すものである。もうひとつは、「LGBT と労働」という企画で、職場において性的少数者であるがゆえに不利益を被る問題に対して、そうした問題をいかに法的に解決していくかを志すものであった。

前者の「LGBT と医療福祉」プロジェクトは、一般企業の助成金を獲得しながら、連続講座開催とパンフレットの作成を行った。ここでは、従来までの、性的少数者／専門家の区分によって性的少数者を「患者」「被支援者」に固定させることを避けてきた試みに比べて、あえて医療者や支援者の文脈を尊重し、その医療・福祉領域から見る「患者」「被支援者」の立場と、そうした区分自体を批判する性的少数者の問題をいかに交差させていくかについて、具体性のある議論やワークショップが重ねられることになった。

後者の「LGBT と労働」プロジェクトでは、関西の非正規労働組合との共同連続学習企画を企画した。その企画の中で、性的少数者を「被傷的な人々」として非正規労働者や障害者と同じ立場に位置づける労働組合と、性的少数者を規範から排除されたマイノリティとして位置づける QWRC の間での違いが顕在化することになった。この違いに向き合いながら、性的少数者が労働問題の文脈のなかで、自らの問題を開示していく時に出てくる問題をつかみ出すことが試みられた。

こうした成果は、2011 年度 G-COE の成果報告書においてまとめられる予定である。

【通信欄】

(研究代表者記入)

プロジェクト	<input checked="" type="checkbox"/> 次世代	<input type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	200(千円)	実績額 200 (千円)

様式 2

最終成果報告書（ワーキングペーパー）のホームページ公開に関する
許諾書

研究成果タイトル

グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」に提出する上記の最終研究成果報告書（ワーキングペーパー）の PDF ファイルを同プログラムのホームページに公開することについて、下記のように返答します。

2012 年 月 日

最終研究成果報告書（ワーキングペーパー）
の執筆者全員のお名前（自署捺印）

記

- 許諾する。
- 部分的に許諾する。
許諾する部分を具体的にご記入ください。
- 下記の理由により許諾しない。
 - 調査対象者の個人情報保護のため
 - その他（具体的に理由をご記入ください）